

感染症まん延期における

ヘルパーステーションからみた新型コロナウイルス

感染対策の提案書 (ver. 1.1)

(2020. 5. 15)

この資料は、住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現のために、日夜活躍しているホームヘルパーさん、利用者様、事業所を守ることを目標に作成しています。新型コロナウイルス感染症がまん延する中、世の中は新しい生活様式へと変わりつつあります。在宅介護も新しいスタイルへと、みんなで一緒に変わっていきましょう。

<一般事項>

新型コロナウイルスは皮膚の接触だけでは感染しません。主としてウィルスの付着した手指で顔の粘膜（目、鼻、口）を触ること、もしくは顔に飛沫（咳やくしゃみ）を浴びることから感染します。ですから**手指消毒の徹底、室内の換気、およびマスク等を利用して顔をガードすることが大切**になります。

感染症まん延期においては全ての人に感染のリスクがあり、そして新型コロナウイルスは**無症状患者からも感染**することが報告されています（有症状の患者からの感染は40%のみ）。だからこそ無症状の相手と接する時にも油断せず、利用者、家族、介助者の**皆様がマスク着用**することを徹底したほうが望ましいのです。認知症の利用者様を相手にする場合など、マスク着用が困難であると思いますが、努力だけはしてみてください。

新型コロナウイルス感染が疑われる**症状（発熱、咳、喀痰、喉の痛み、鼻汁、嗅覚・味覚異常など）**のある利用者を介助する場合は、必ず事業所管理者に連絡し、訪問看護師や医師に相談の上、早急に対応策を検討して下さい。

<利用者様・ご家族様へ>

検温・体調不良を確認し、気になる点があれば事前に事業所へ連絡して下さい。ヘルパーさんに介助を受けている間、できる限り**双方がマスクを着用**することに協力して下さい。介助を受けている間のお部屋の**換気、手指衛生**にも協力して下さい。

<ホームヘルパーさん・介護職員さんへ>

利用者宅に到着後は、インターホンを押した時点から指の汚染は始まると考え、**手指衛生の徹底**に務めて下さい。「1ケア1手洗い」、「ケア前後の手洗い」の原則を意識して下さい。

自分だけでなくお互いのため、可能であれば同室にいる**利用者や家族にもマスクの着用**をお願いして下さい。

部屋の**換気**をよくし、可能であれば風上風下の位置関係を確認し、できる限り飛沫を浴びないような意識を持って下さい。空気の流れを作るため、扇風機の利用も良いかもしれません。

不意の咳きこみなどに備え、飛沫を浴びないよう利用者の真正面に顔を置かないように配慮し、できる限り横から介助して下さい。同じ理由で可能な限りアイシールドも装着して下さい。

これは花粉症用のゴーグルやサンバイザー、大きめの伊達眼鏡で代用しても構いません。使用前後でのゴーグルの消毒は必ずするように努めて下さい。

特に食事介助では利用者のマスク装着が出来ないので咳きこみに注意して下さい。

体液（尿、便）にもウィルスはいますので、排泄介助でも体液の付着に注意し、マスク、ゴーグル、エプロンは着用しましょう。

リネン類は通常の洗濯でかまいません。洗剤で新型コロナウイルスは死滅します。利用者に感染症の疑いが強い場合は、念のため熱水で処理（80℃10分間）もしくは次亜塩素酸ナトリウム溶液（0.05～0.1%）に浸漬してから洗濯することを検討します。

利用者の体調不良の有無、入室及び退出時間、利用者及び家族のマスク着用の有無を記録して下さい。これらの記録はのちに新型コロナウイルス感染者が出た場合、関わった全ての人を守るための、とても役立つ情報になります。

<ヘルパーステーション管理者へ>

スタッフに対して**手指消毒の徹底とマスク着用**を毎日呼びかけるようにして下さい。

スタッフ同士であっても3密を避けるため、室内の換気をよくし、1m以上の距離をとって15分以内で話すよう工夫して下さい。食事中は飛沫を避けるため、対面には座らず、横並びで座って食べるようにして下さい。

訪問担当者の記録の管理を大切にして下さい。特に入退室時間や双方のマスク・ゴーグル等の着用の有無は、のちになって利用者様やスタッフから患者が出た場合、濃厚接触であったかどうかの証拠確認が楽になり、**ステーションの14日間の閉鎖に至らないで済む可能性も高くなります。**

気になる時には、早めに訪問看護師や医師に相談して下さい。

<その他>

この資料は2020.5.15に作成したver1.1です。内容には適宜修正が加えられていくか、追加事項として内容の補足をしていく予定です。新しいバージョンや追加事項が出てないかどうか、時々チェックして下さい。

2020.5.15

在宅医療連携を考える会「こぶしネット」

提案書の追加事項（その1）

＜提案書作成の目的＞

この提案書は、在宅介護を必要とする高齢者や障がい者と接する機会が頻回で時間も長い介護職の皆様感染症に対する正しい知識を持っていただき、介護者やその事業所、利用者様やご家族を感染症から守ることを目的として作成しました。また、この提案書の内容は、感染症まん延期という期間限定のものであります。

＜一人で悩まないように＞

介護職の皆様が安心して職責を果たすためにはまず自分を守らなければなりません。提案書にはあくまで基本的な事項が書かれています。しかしながら訪問の現場ごとに状況は違います。不安があれば、一人で悩まず「報告」・「連絡」・「相談」を思い出してください。「こぶしネット」は患者様・利用者様の在宅生活を見守っていく仲間たちの集まりです。在宅医療・介護に関わる全ての職種がこの新型コロナウイルス禍に立ち向かおうではありませんか。

＜相談に対して＞

事前にアンケートをとった結果、多くの相談が寄せられました。全てに対応は困難なのですが、一つだけ具体的に対策を書きます。利用者さんにマスクの着用を要請するという件ですが、このことは感染対策の中でも比較的重要な部分です。ところが利用者さんの中には、マスク着用には非協力的な人も多いと聞いています。別紙として利用者さんに伝えるためのイラスト入りの資料を作りました。また、ヘルパー以外の訪問看護師さんやケアマネさんを通じて、利用者様に協力の必要性を伝えていきたいとも考えています。これは一つの例ですが、多職種連携がうまく機能すれば、できることは他にもあります。

どうか、みんなで乗り越えられますように！

2020. 5. 15

在宅医療連携を考える会「こぶしネット」

ご利用者様・ご家族様へ

＜新型コロナウイルス感染症まん延期間中のお願い＞

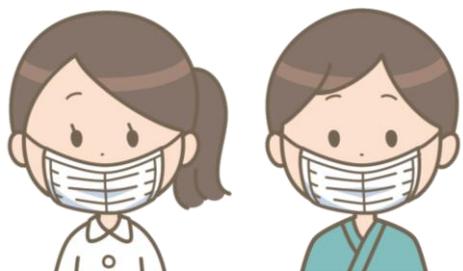
令和 年 月 日

事業所

管理者



毎日の体温測定と体調を確認して頂き、気になることがあれば、事前に事業所へご連絡ください。



介護を受けている間は、できる限り利用者様、ご家族様もマスクを着用するように、ご協力ください。



換気しよう

介護を受けている間のお部屋の換気にご協力ください。



ケアごとの手洗い、咳エチケットにご協力ください。